

葛飾区都市計画マスタープラン 地域別勉強会ニュース

第6回(最終回)
2022.9

第6回地域別勉強会 開催概要

日時	9月3日(土) 13時00分～15時00分
場所	男女平等推進センター 1階 多目的ホール
参加人数	合計59名(欠席55名) ◎水元・金町・新宿：11名 ◎柴又・高砂：13名 ◎亀有・小菅・堀切・お花茶屋：12名 ◎青戸・立石・四つ木：13名 ◎奥戸・新小岩：10名
内容	1. 区長挨拶 2. 座学 幅広い世代からの意見収集の結果について 3. 全体発表 各地域の地域別構想案の発表 4. 講評 中林一樹氏(東京都立大学・首都大学東京 名誉教授)

下の二次元コードから葛飾区HPの「第6回都市マス地域別勉強会の報告」のページをご覧ください。



地域別勉強会全体の開催概要

令和3年12月開催の第1回勉強会から、計6回にわたり、皆様のご協力のもと開催してきました。地域別勉強会でとりまとめた、「地域別構想案」は、策定委員会に報告いたします。

第1回(令和3年12月)

- ・都市計画マスタープランの概要等
- ・基調講演：都市マスと地域別まちづくり構想
：地域主体のエリアマネジメントとプレイスメイキング
- ・グループワーク：地域の魅力と課題を考えよう



【基調講演の様子】

第2回(令和4年1月)／第3回(2月)

- ・グループワーク：テーマ別に地域の魅力と課題を整理し、魅力の活かし方、課題への対応策を考えよう

交通

土地利用

みどり

市街地整備

防災

復興



【勉強会の様子】

第4回(4月)

- ・グループワーク：①地域の将来像を考えよう／②地域のまちづくり基本方針を考えよう

第5回(6月)

- ・グループワーク：地域別構想素案を考えよう

意見収集(7月)

- ・オープンハウス、WEBアンケート
区内6施設でのオープンハウスやWEBアンケートの実施により、地域別構想素案などについて、ご意見をいただきました。



【オープンハウスの様子】

第6回(9月)

- ・意見収集の結果報告
※報告内容については、最終ページをご覧ください。
- ・地域別構想案の発表
- ・講評、全体総括



【会場全景】



【区長挨拶】

水元・金町・新宿地域

■地域の将来像

賑わいと活力ある拠点の形成と豊かな自然環境に恵まれ、都市の利便性・快適性を享受できる住み良いまち

■まちづくりの基本方針

- 1) 賑わいと活力ある拠点の形成
- 2) 公園と河川、農地など緑豊かでゆとりと潤いある住環境の形成
- 3) 駅周辺における交通結節点としての機能強化や幹線道路網の整備



発表の様子

整備方針図と発表のポイント

○：地域の思い □：発表した整備方針（抜粋）



区民事務所の更新に合わせた防災拠点性の強化が必要

大きな面積を持つ水元公園は、水元地域の重要な資源で財産

東京理科大学などの教育施設や葛飾にいじゅくみらい公園を生かした生活拠点の形成

エリアマネジメントをきっかけに、次世代にも街づくりに関わってもらいたい

柴又・高砂地域

■地域の将来像

魅力ある歴史的景観資源と駅周辺の都市機能創出による、賑わいある多世代が暮らしたくなる水辺のまち



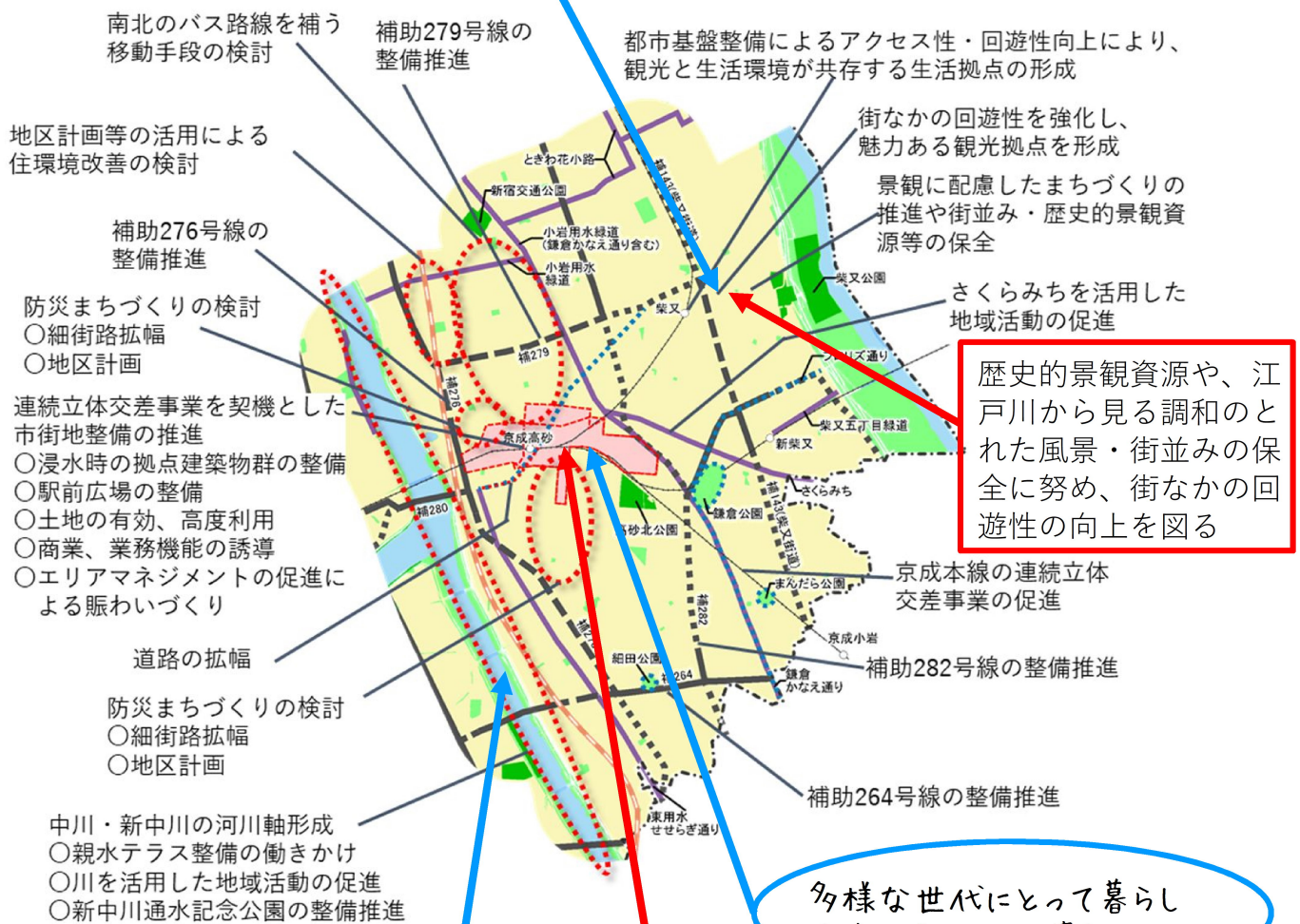
■まちづくりの基本方針

- 1) 京成本線の連続立体交差事業の早期実現、
魅力と活力あふれる高砂駅周辺のまちづくり
- 2) 柴又界隈を中心とした魅力ある景観まちづくり
- 3) 快適な住環境の形成と商業・業務等施設が調和した、災害に強く親水性の高いまちづくり

整備方針図と発表のポイント

○ : 地域の思い □ : 発表した整備方針 (抜粋)

柴又は、平成30年に、都内初の
国の重要文化的景観に選定



地域に身近な中川や新中川で、
川を活用した地域活動を行って
いきたい

多様な世代にとって暮らし
やすい街にしていきたい

高砂駅の連続立体交差事業を契機とした駅周辺の
市街地整備やエリアマネジメントを推進

亀有・小菅・堀切・お花茶屋地域

■地域の将来像

広域拠点を中心に世代を越えた人々が集い、商業の賑わいと安全・快適で住み続けたい、自然と歴史を残すふるさとのまち

■まちづくりの基本方針

- 1) 人々が集い、憩う個性あふれる魅力と賑わいある拠点の形成
- 2) 誰もが安心して安全に住み続けられるふるさとづくり
- 3) 回遊性の高い歩行者ネットワークの形成による地域の魅力づくり



発表の様子

整備方針図と発表のポイント

○：地域の思い □：発表した整備方針（抜粋）

〈地域共通〉

寺社などの地域資源を生かした魅力づくり

亀有駅周辺では、地元商店街と大型店舗が一体となった賑わいの創出を図る

小菅などに点在する自然や歴史資源を生かしたい

周辺の都市施設整備の進捗に合わせた街づくりの必要性の検討

亀有駅周辺での賑わい創出

小菅一丁目地区地区計画を活用したまちづくりの推進

拘置所周辺での地域活動の促進

京成本線荒川橋梁の架け替え促進

足立区と連携し、綾瀬駅周辺まちづくりの検討

中川河川軸の形成
○親水テラス整備の働きかけ

○魅力を高める修景整備
○地域活動の促進

お花茶屋駅周辺の商業環境及び密集市街地改善の検討
○商店街の下町らしい街並み景観保全
○曳舟川親水公園と駅周辺を一体的に活用した地域活動の促進

堀切菖蒲園駅の周辺環境の改善
○不燃化・耐震化の促進
○防災まちづくりの推進
○細街路や行き止まり道路などの解消による安全性の向上
○路地裏空間などの街並み景観保全
○駅周辺の交通環境改善の検討
○地域の特性に合わせた道路等の都市基盤整備
○身近な商業・業務機能集積を誘導し、地元商店街などの活性化

補助264号線の整備推進

補助272号線の整備推進

堀切地域では、建物の耐震化などの促進、行き止まり道路などの解消による安全性の向上を図る

堀切菖蒲園の周辺は、地元商店街と連携して回遊性を確保したい

青戸・立石・四つ木地域

■地域の将来像

区を中心部として活気にあふれ、暮らしとなりわいが共生し、様々な世代が安全・快適に暮らせる、水と緑が身近に感じられるまち

■まちづくりの基本方針

- 1) かつしかの核となる拠点形成
- 2) 防災性を重視した魅力と活力に満ちた住工共存のまちづくり
- 3) 河川と一体感のある、回遊性の高い連続的な空間づくりと新しい水辺の魅力創出



発表の様子

整備方針図と発表のポイント

○：地域の思い □：発表した整備方針（抜粋）

〈地域共通〉

- 防災まちづくりの推進
- 河川と一体感のある回遊性の高い空間づくり
- 東立石緑地公園や親水テラスを活用した地域活動の促進
- テラス、通路、道路整備による回遊性の向上

20年後を見据え、特徴ある街づくりを進めることで活気のある街にしていきたい

青砥駅周辺では、観光資源や商業・文化施設などを生かしたまちづくり、歩行者空間の安全性・利便性の向上を図る

- 青砥駅周辺のまちづくり
- 地元まちづくり組織の活動支援
- 歩行者空間の安全性や利便性向上の検討
- 防災機能の強化の検討
- 商業・文化施設などを活かしたまちづくり

- 立石駅周辺の再開発等を契機とした市街地整備の推進
- 駅前広場の整備
- 区役所機能の移転
- エリアマネジメント活動の推進

- 京成押上線の連続立体交差事業の推進
- 高架下の活用

四ツ木駅周辺では、地域の顔となる駅前空間の整備を推進

増加している外国人とも交流できる街づくりをしていきたい

- 四ツ木駅周辺の市街地整備の推進
- 駅前広場の整備
- 都市計画道路の整備

立石駅周辺では、公益サービス等を充実し、エリアマネジメントを推進



奥戸・新小岩地域

■地域の将来像

世代間交流が盛んで魅力的な広域拠点の形成と、親水と浸水が両立した災害に強く緑が充実したまち

■まちづくりの基本方針

- 1) 多様な世代に対応した魅力的な広域拠点の形成
- 2) 震災や水害など様々な災害に強いまちづくり
- 3) 川を生かした身近な水辺空間の充実と緑豊かな市街地の形成



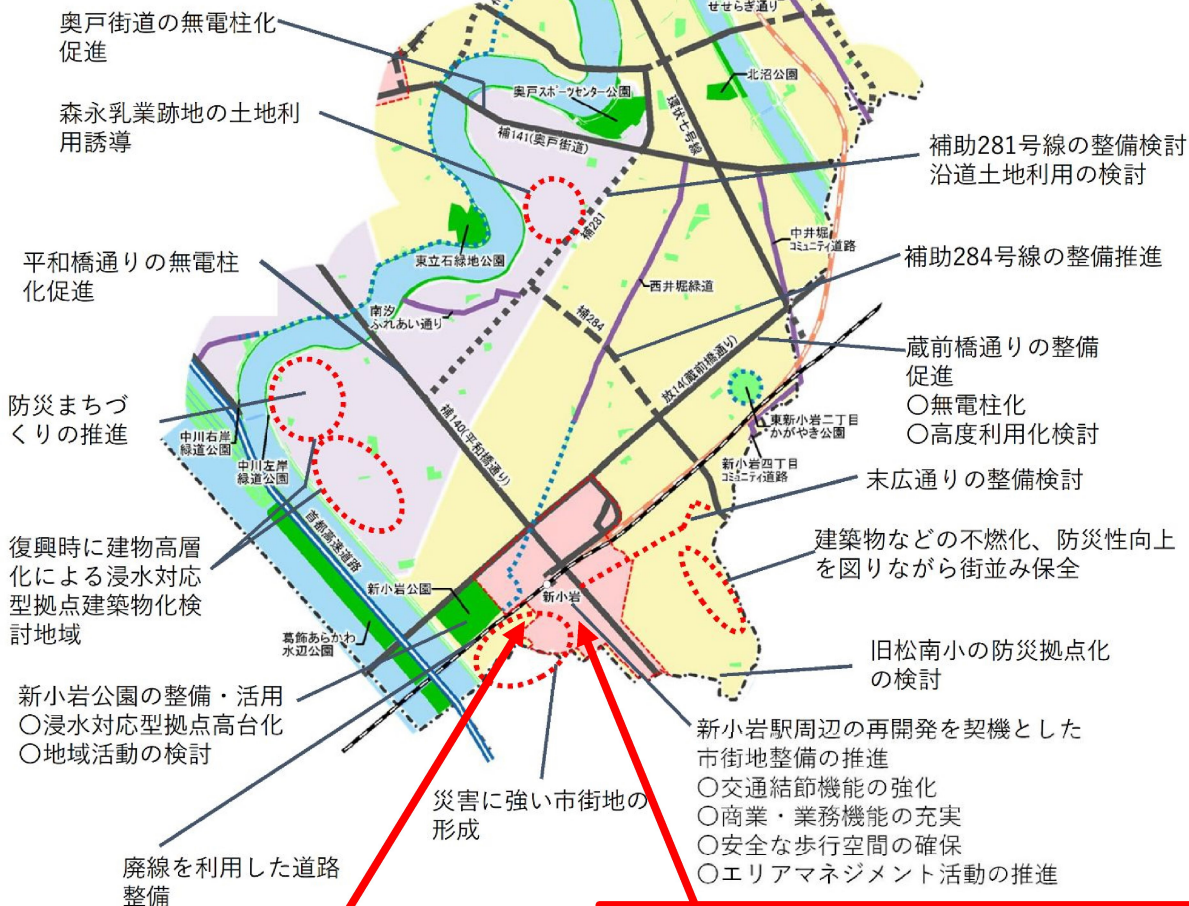
整備方針図と発表のポイント

○：地域の思い □：発表した整備方針（抜粋）

〈地域共通〉
 中川河川軸の形成
 河川空間での賑わい創出
 農地の保全などによる緑豊かな市街地の形成

農地の保全・活用や公園の整備、沿道の緑化を促進し、緑豊かで良好な市街地の形成を誘導

川は隣人のような存在の脅威とするだけでなく、機能充実や水辺を活用した地域活動の推進など、身近な水辺空間として充実させていきたい



駅前広場などの整備による交通結節機能の強化や、エリアマネジメントを推進

新小岩駅周辺において、商業・業務機能など多様な都市機能の誘導や多世代が住みやすい質の高い住宅の整備を推進

■各地域の地域別構想について思ったこと

案には、4つのポイントがあったと思います。まず、駅周辺の賑わいや回遊性をどのように確保するのか。2つ目は、緑や公園、川を活かして潤いのあるまちにしたいということ。3つ目は、誰もが歩きやすいまちにしたいということ。4つ目は、高架下空間を有効活用したいということでした。高架下の活用は、効率的な土地利用の面から考えても大切なことですが、土地所有者の鉄道会社、区、地域の三者にwin-win-winを生む機能や施設であることが必要です。



■皆さんがつくった地域別構想をどのように実現していくのか

まちづくりは、つくる「ハード」、そのハードを使うことで賑わいが生まれる「ソフト」の2つで成立します。エリアマネジメントによって、みんなで街を使っていくことが大切です。また、歩きやすい街ですが、困っている人がいたときに自然と手助けができる「心のバリアフリー」も大切で、賑わいにも繋がります。これはハードではできないことです。

これらの構想は、どんなまちにしたいのか、勉強会で、皆さんが知恵を結集し、議論してまとめたものと思います。「紙に描いただけの塗紙（とし）計画」に終わらせず、「みんなの都市計画」として、どのように実現するか、それには「地域協働」という言葉がありますが、今は、区民と行政とが役割分担して、一緒にまちづくりをする時代です。行政でつくられたハードを「生きたまち」にするために「どう使っていくか」は、皆さん次第です。「私たちが何をやったらまちづくりが実現できるのか」と区に問いかけ、やれるところからぜひ取り組んでください。

葛飾区には「街づくり推進条例」があります。条例には、「皆さんが主体となった街づくりを後押しするために、区は支援し、可能な限りのバックアップをします」と書かれています。このような支援制度についても知ってほしいし、活用してほしいと思います。

PDCA—Plan⇒Do⇒Check⇒Action—も重要です。5年後に実現できたもの、できなかったもの、その原因などを考え、行政に伝え、一緒に工夫することが計画実現につながります。今回の勉強会を通じて一緒に街づくりについて議論できる仲間ができたのではないかと思います。今日の発表会で終わりではなく、今後も街づくりに取り組んでほしいと思います。

アンケートのご意見等

- ・改定経過や街づくりの情報を知らせてほしい
- ・一般の勉強会参加者を増やす工夫をしてほしい
- ・意見収集は、地域で偏りがないう工夫が必要

ご意見ありがとうございます。街づくりなどの情報は、駅前再開発や災害に強い街づくりなどをはじめとして、本勉強会の参加者募集においても、広報やホームページで情報発信をしまいいりました。オープンハウスの開催については、あわせてTwitterやLINEなど、複数のSNSでも周知し、来場者のなかには、SNSで開催を知ったという方もおられましたので、一定の効果はあったと考えております。

一方で、関心がない方々に街づくりにご参加いただくには、一層の工夫が必要ですので、発信方法などについて、引き続き検討してまいります。

本音ベースの区民の意見をまとめておくべきではないか

勉強会の検討過程でいただいたご意見については、区で保存し、今後の街づくりにいかしていきます。

その他のご意見

- ・他地区の魅力や課題を知ることで地元の優位性や弱点を再発見できた。
- ・今後も葛飾のまちづくりに参画できる機会があると嬉しく思う。
- ・発表時のスクリーン資料は、配布資料と同じにせず、写真を増やすなど工夫してほしかった。
- ・発表では、自分の地域をよくしたいという強い思いが伝わってきた。
- ・全地域の魅力や課題がよくまとめられていた。ぜひスピード感を持って実現してほしい。

お問い合わせ先

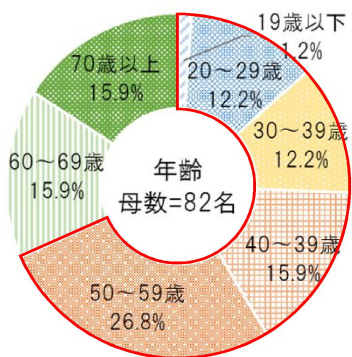
葛飾区 都市整備部 都市計画課 街づくり計画担当係 電話：03-5654-8382（直通）【担当：山本、兵頭、原田】

座 学（幅広い世代からの意見収集の結果について）

	オープンハウス	若者・子育て・現役世代アンケート	中学生アンケート
方法	パネル展示、対面での説明	WEBアンケート	WEBアンケート
対象者	区内在住者、区内来訪者	区内在住15歳～59歳	区立中学校（10校）2年生
回答数	101名（アンケート回答82名）	1,000名	914名（回答率73.4%）
調査内容	各素案に対する意見 各地域のまちづくりに対する意見	将来に残したい葛飾らしさ 各素案に対する意見	将来に残したい葛飾らしさ 将来住みたい場所の条件 各素案に対する意見
いただいた主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 水元地域の交通不便の解消 柴又駅周辺の回遊性を高める 曳舟川親水公園の活用 立石駅付近の雑多なまちは好き 新小岩駅周辺の都市開発 	<ul style="list-style-type: none"> 金町駅自体の改良、改札の増設 お花茶屋駅の高架化や周辺の活性化、改善 細田地域の具体的なプランがない 歩道が狭いため改善してほしい（亀有・小菅・堀切・お花茶屋） 立石駅にエレベーターがないため、バリアフリー化してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 葛飾区の計画を知り、街がどう変わっていくのか楽しみ 葛飾区のために計画を考えてくれるのが嬉しい 都市開発が進んでも緑や自然を残してほしい 動画が長い、言葉が難しい、シンプルな字幕がほしい

中学生アンケート：各地域の将来像に対する評価

オープンハウス
来場者の年齢構成



来場者の68.3%が現役世代という結果となりました
アンケート回答者は82名

